

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100459
法人名	有限会社 ライフ・シップ
事業所名	嘉瀬紀水苑
所在地	佐賀市嘉瀬町大字萩野698番地 (電話) 0952-29-8807

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年 3月 20日	評価確定日	平成21年5月26日

【情報提供票より】(平成21年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	4人, 非常勤 6人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺平屋建て造り
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.8歳	最低	84歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院、下平歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はのどかな田園地帯に位置しているが、幹線道路に面しているため二重サッシで防音されている。室内は静かで、廊下には明り取りの天窓が設けられ、明るい居住空間である。家庭的な雰囲気の中で「楽しく」「なごやか」「すこやか」を理念にしている。スタッフの勤務年数も長く利用者も落ち着いた和やかな事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題への取り組みをより確実なものとするため改善計画シートを作成し全職員と協議しサービスの向上に努力している。 又、研修機会の一層の充実を図るため、認知症介護実践研修受講や介護福祉士の受験などに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については管理者、職員全員で話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、改善計画シートを作成して、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、家族、地域包括支援センター、公民館長、自治会長などが出席している。苑だよりを配布したり、評価結果を報告し、意見交換を行っている。「家族からアンケートを取ってみてはどうか」という提案があり、家族アンケートの実施につなげた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関の目に付きやすいところに意見箱を設置している。また、家族の面会時には何でも相談し意見を言ってもらおうよう声かけなどに配慮している。電話連絡時にも意見や不満などを聞き運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 管理者がホームの隣接地に居住しているということもあり、地域の人たちとは親密に交流している。河川清掃への参加や地域の人たちをお汁粉会に招いたり、子どもたちとの交流をしたり、ボランティアに来てもらったりして地域の人たちとの交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を職員みんなで話し合い「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーに掲げ、地域との交流の中でその人らしく暮らしていけることを支える理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、居間、事務所などに理念を掲示し、朝、夕の申し送り時に読み上げるなどして理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は地域住民であり、地域の人たちとは親密に交流している。管理者の河川清掃への参加や地域の人たちをお汁粉会に招いたり、子どもたちとの交流やボランティアの受け入れなどを通じ地域の人たちとの交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と全職員で取り組んでいる。又、改善計画シートを作成するとともに外部評価の結果を踏まえて、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族・地域包括支援センター・公民館長・自治会長などの参加を得て開催されている。会議では評価結果を報告したり、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け改善への取り組みにつなげている。「家族からアンケートを取ったら」という提案をもとにアンケートを実施し、面談では言えないことや、職員に対する感謝の想いが寄せられていて大変参考になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者には運営推進会議に、毎回出席してもらっている。「倫理法令」や「個人情報保護法」などの講習をしてもらうなど市町村との協力関係を築きながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等へは事業所での出来事や行事案内、誕生者紹介を記したたよりを毎月配布している。又、個別に利用者の暮らしぶりや健康状態を記入して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の目に付きやすいところに意見箱を置いている。家族の面会時にはなんでも相談・意見を言うってもらうよう声かけなどに配慮している。又電話連絡時にも意見や不満などを聞くようにして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係による支援の中でケアの継続ができるよう職員の異動を少なくするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や介護福祉士の資格取得のための受験など職員の立場や経験・習熟度に応じた学びの機会を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流研修会に参加するなどし、日頃の仕事の悩みの解消を図っている。又、交流や連携を深め、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に慣れてもらうよう家族と相談しながら体験入居や、昼間に遊びに来てもらうなどし利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌の好きな方が多いので、朝と夕方みんなの好きな歌と一緒に歌いながら過ごしている。職員は利用者から「痒いときは、とべら草が効くよ」とか正月の飾り付けを聞いたり、季節の行事を覚えてもらう事も多く、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などに基づき、一人ひとりのしたいこと、行きたいところなど、暮らし方の希望・意向の把握に努め職員同士で情報を共有している。また随時何をしたいのか、どこに行きたいのかを聞いて温泉や花見に行ったりしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画	アセスメント表を用いて本人がより良く暮らしていくための課題とケアのあり方について、家族・本人・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し	日々の生活の中で見直しが必要になってきている場合などは、本人・スタッフと話し合い現状に即した新しい計画を作るなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況・要望に応じて食事や買い物・行楽などの外出の支援や、看護師による24時間の緊急時の相談体制を整え日々の健康管理に努めている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人・家族が大切にしている馴染みのかかりつけ医への受診を継続しているが、本人・家族の希望でかかりつけ医の変更を希望した場合は、適切な治療ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に重度化や終末期の看取りの指針について説明し、同意を得ている。本人・家族・かかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや誘導歩行時などもゆっくり丁寧に行われ、一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した対応がなされていた。個人情報に関する記録簿などは鍵のかかる戸棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっているが、朝起きるのが遅い人はその人だけ遅く朝食をとるなど、一人ひとりのペースを大切に支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際は、利用者の好きなメニューを聞いて取り入れたり、家族の面会時には家族と一緒に食べてもらったりしている。また外出時には市販の弁当を注文するなど食を通じた楽しみの機会づくりにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴だが、本人の希望で毎日入浴したり、入浴のきっかけが必要な人にはタイミングを見計らって入ってもらうようにしている。希望があれば夜間の入浴にも対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かした役割・楽しみごとを見出し、塗り絵や計算ドリル・新聞のチラシを見るなどして楽しんでもらっている。歌の好きな方が多く、一緒に大きな声で歌うこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や気候に合わせ、近隣の散歩や行楽地に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がなく、玄関も日中は鍵をかけることはない。鍵をかける事の異常性を理解し、日中鍵をかけないですむケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回利用者にも参加してもらって避難訓練を行っている。時計を持って台所に立ち、利用者が部屋から歩いて玄関までどれくらいかかるのか時間を計ったり、夜間を想定して隣家のご家族の協力を得ての誘導避難訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取形態・摂取量に応じて提供し、水分も食事以外に一日1000mlを目標に飲用してもらうように、お茶やスポーツ飲料・アップルティー・コーヒーなどを準備している。又、栄養のバランスに配慮した献立表を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車や暴風音の騒音防止の為に2重サッシや、ホールの天井窓に優しい光を取り入れる工夫をしている。冬場は室内の乾燥防止に加湿器を置き、また、季節暦を取り入れて季節を感じ取ってもらうように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、使い慣れたたんすや机・テーブル・椅子・テレビ・飾り物・写真など、好みの家具が持参され居心地良く過ごせるよう工夫している。		